

2023

コースガイド

芸術学コース

<2023/05/08更新>

p.14・16「1)1年次編入学生年間履修モデル」に修正がありました。該当箇所は赤字で示しています。

<2023/05/27更新>

p.12に記載の「論文研究II-1（芸歴和）」bクラス・dクラスの日程に修正がありました。該当箇所は赤字で示しています。



学校法人 瓜生山学園

京都芸術大学 通信教育課程

[生活を快適にする技芸]

「芸術は飯の種にはならない」「芸術は暇人のするものだ」。なんと聞かされたことでしょうか。しばしば富や権威の象徴であるように、生活の必要性からは甚だ乖離した「贅」の側面が芸術にあることはたしかです。しかし、芸術学コースでは、芸術をもっと広く、生活に密着したものとしてとらえます。すなわち、「芸術は生活を快適にする技芸」であると。悲しみに暮れる人に歌を聞かせ励ますのも、傷心に沈む人をダンスで鼓舞するのも、一輪の部屋に飾られた花で病人の心を慰めるのも、みな、そうした技芸としての芸術のなさしめることです。

かつては、いまよりも、祭りや儀礼が生活に密着したものとしてありました。もちろん、そのときも、そのような技芸としての芸術は欠くべからざるものでした。たとえば、太鼓を叩き雨乞いをし、竹笛を吹き亡霊を慰撫し、踊り狂っては見えない精霊たちを招きよせました。旧人類（ネアンデルタール人）にすでに芸術活動の痕跡があるとされていますが、芸術は人類の誕生とともにあったといっているほどに、人類にとって、まさしく本質的な活動です。芸術学コースで、芸術を深く学んでください。

[芸術と感性]

芸術には感覚がつきものです。絵画を見たり、音楽を聞いたり、感覚的な作用を一切ともなわない芸術を想像することはできません。芸術は、感覚を通じて、生活を楽しめるものにしたり、人にカタルシス（浄化）の感情をはたらかせるものです。しかし、感覚と切っても切れない関係にあるとはいえ、芸術はたんなるフィーリングでも気分でもありません。芸術は、どちらかといえば、感覚的な放恣を戒める側に立つものです。まして、酒池肉林の官能からはほど遠いものです。しばしば、偶像破壊が叫ばれるのもまったくゆえなきことではありません。つまり、感覚（感性）領域といえども、無法地帯があるわけではなく、そこに、むしろ、固有なロゴスがあると思われます。芸術学を学ぶものは、そのロゴスの探求者でなければなりません。芸術学は感性の学であります。

[芸術の三つの形態]

さて、芸術の領域や分野を考えるうえで、われわれはすこし複雑な現実のなかにいるということが出来ます。そもそも、「芸術」は明治期に導入された概念です。つまり、「芸術」という言葉は、その時期に、ヨーロッパ語の「アート」もしくはそれに「ファイン」という形容詞をつけて「ファイン・アート」という概念が導入され、訳語として定着したものです。「ファイン・アート」という概念は、もちろん、ヨーロッパの文化的な土壌から発生した歴史的な所産ということが出来ます。素性からいえば、もともとそのような土壌のない日本に、「芸術」はいわば外から導入され、大学などの機関での教育を通じて、今日、さほど違和感のない程度にまで定着したものにほかありません。

「芸術」が導入される前にあったのは、一般に、「芸道」とか「芸能」とか呼ばれているものです。つまり、茶道や華道や能楽です。いずれも、家元制度などの世襲的な制度のもとで、師資相承、今日まで、伝えられてきたものです。そして、「芸道」とか「芸能」が、誕生はともあれ、確立したのはおおむね中世もしくは近世ということが出来ます。それぞれ、様式化された美としてそれらを確立した天才たちが現れました。すなわち、能楽における世阿弥、茶道における千利休です。あるいは、庭における夢窓疎石です。

そして、さらに、「芸道」とか「芸能」が確立する以前には、いろいろな年中行事をふくむ祭りがありました。収穫や息災を祈る儀礼や祭りです。それらは、時代とともに変化しながら、現在まで、正月をはじめ、節句などの行事に、引き継がれているものです。

以上、おなじように、感覚を通じて生活を快適にする技芸でありながら、いわば出自を異とする三者が、日本において、混在しています。普通は、そのような状態を自覚的に意識することはありません。しかし、無意識のうちに、相互に、不必要な誤解や偏見を生んでいるかもしれません。芸術学コースでは、三者のうちのどれをも尊重しながら、それらの共立の道を、あるいはそれらの創造的な融合の道を、探っていくと考えます。

[創造的集団]

最後に、通信教育部には、全国の各地から、いろいろな学生が集まっています。まさしく、多地域・多世代を地でいくコースです。学生たちの職業や人生経験も多種多様です。どうでしょうか。そのような集団は魅力的ではないでしょうか。多様な価値観で彩られた学生たちからなる集団は、その内に、とてつもない文化的創造力を秘めています。同世代の集合にしかすぎない通学部とは比べるまでもありません。どうか、通信教育部・芸術学コースで学んでください。芸術でもって、身も心もブラッシュアップしてください。

目次

1. 学習を進めるにあたって	2
2. 芸術学コースでの学習の進め方	3
3. 2023年度の主な変更事項および注意点	4
4. 専門教育科目一覧	5
5. 卒業要件、卒業研究着手要件	7
6. カリキュラムマップ	10
7. 芸術学科専門教育科目 スクーリング日程	12
8. 芸術学コース専門教育科目 スクーリング日程	13
9. 履修モデル	14
10. 新旧科目対応表	19
11. 論文研究・卒業研究	20
12. 過去の「卒業成果物」閲覧申込	22
13. 学外スクーリングを受講される方へ	23
14. 学習のしおり（学習をはじめるまえに）	25

『コースガイド』を使って履修計画をたてましょう

通信教育では通学制と異なり自分で履修プランをたて学習をすすめることが重要です。

入学許可後は、airU学習ガイドやシラバスを確認して履修計画をたてましょう。airUマイページでは履修プランを作成することができます。



本学通信教育課程では「履修登録」がありません。年度途中に新規科目に取り組むことも可能です。また、履修状況や学習環境の変化によって履修プランをたてなおし、学習をすすめていくことができます。

1. 学習を進めるにあたって

学習を進めるにあたっては、airU学習ガイドもあわせて参照してください。

1. 履修形態

通信教育課程における開講科目は、「テキスト科目」と「スクーリング科目」に大きく分けられます。
本学通信教育課程では、自宅学習や対面授業、レポートや作品など課題によって科目の形態が6種類あります。

テキスト科目	TR	テキストレポート科目	レポート課題と単位修得試験のある科目	自宅学習
	TW	テキスト作品科目	作品課題の科目	
	TX	テキスト特別科目	卒業関連科目、論文研究など特別な科目	
スクーリング科目	WS	ウェブスクーリング科目	Web上での動画学習とレポート試験／作品課題がある科目	対面／遠隔授業
	S	スクーリング科目	対面／遠隔授業のある科目	
	GS	藝術学舎科目	本学が開講する公開講座藝術学舎を受講する科目	

2. 履修期間・課題提出期間

それぞれ3ヶ月タームで履修の区切りがあります。課題提出期間は科目区分によって決まっています。

課題提出・単位修得試験スケジュール		春期			夏期			秋期			冬期		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
TR	テキストレポート科目	レポート 21～30		試験 1～8	レポート 21～30		試験 1～8	レポート 21～30		試験 1～8	レポート 21～30		試験 1～8
TW	テキスト作品科目	作品 11～20	作品 11～22		作品 11～20	作品 11～21		作品 11～20	作品 11～20		作品 11～22	作品 11～20	
TX	テキスト特別科目	課題の提出期間は科目により設定されます。											
WS	Webスクーリング科目		レポート 21～28	最終講評 13～20		レポート 21～28	最終講評 13～20		レポート 21～28	最終講評 13～20		レポート 21～28	最終講評 13～20
S	スクーリング科目		夏期先行募集 17～25			秋期先行募集 17～25			冬期先行募集 17～25				2024年度 春期先行募集 3月下旬
		春期追加募集 12～(開講30 ～5日前)		夏期追加募集 10～(開講30 ～5日前)		秋期追加募集 9～(開講30～ 5日前)			冬期追加募集 9～(開講30～ 5日前)				
GS	藝術学舎科目			夏季申込 6月初旬～			秋季申込 9月初旬～			冬季申込 12月初旬～			2024年度 春季申込 3月初旬～

- ・対面の単位修得試験の今年度の試験実施日と受験申込期間はairU学習ガイドを参照してください。
- ・スクーリング科目における追加募集の締切日につきましては、airUマイページ>スクーリング>「スクーリングを申し込む」>スクーリング一覧より確認してください。

卒業判定にかかる方は卒業関連科目以外の科目を冬期（1月～3月）に履修することはできません。

※ただし、卒業要件の必修TR・TW科目において、秋期（10月～12月）のレポート・作品課題もしくは単位修得試験が不合格かつ当該科目以外の卒業要件を充たす見込みの方に限り、冬期の履修を認めることがあります。
詳細はairU学習ガイド>学習方法>卒業判定>卒業予定者のスケジュールを確認してください。

3. 課題提出方法

課題提出形態は「airU」「郵送」「窓口」の3種類です。科目により「airU」のみで受け付けるもの、「郵送」または「窓口」のみで受け付けるものもあります。それぞれの締切日の到着は、「airU」は13時までに大学のサーバーに着信済、「郵送」は本学に必着、「窓口」は京都・瓜生山キャンパス通信教育課程事務局窓口にて17時までに受付済、と定められています。

4. 単位修得試験

テキストレポート科目（TR）では、レポート合格後に単位修得試験が受験可能です。単位修得試験はWeb（airUマイページ）で受験できます。

5. スクーリングの申し込み方法・キャンセル

スクーリング科目（S）の申し込みは3ヶ月ごとに募集を行います。申込スケジュールを確認し、期日内にairUマイページより手続きしてください。また、受講許可後はキャンセル時期により10～100%のキャンセル料が発生します。

6. 藝術学舎科目

年4回3ヶ月ごとの季に分けて開講している一般公開講座です。講座を受講することで通信教育部で有効な単位の修得が可能です。詳細は、藝術学舎Webサイト、パンフレットを参照してください。藝術学舎の単位認定に関してはairU学習ガイド>教育課程>単位認定>藝術学舎取得単位の認定を確認してください。

2. 芸術学コースでの学習の進め方

1. 履修計画の立て方

卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための科目がどのように配置されているのか、各科目の関係性を示した図「カリキュラムマップ」(pp.10~11)を確認し、履修計画の参考にしてください。

- ・総合教育科目…興味のある科目を自由に履修。必修科目はありません。
 - ・学部共通専門教育科目…興味のある科目を自由に履修。2015年度以降入学生は12単位以上必修。
 - ・芸術学科専門教育科目
 - ・芸術学コース専門教育科目
- } カリキュラムマップを参考にしましょう。

本年度に入学されたみなさんは、カリキュラムマップのうち、まずSTEP1の科目群の入門科目から履修しましょう。同じ枠内に記載されているテキスト科目とスクーリング科目を並行して学習することで、よりいっそう理解を深めることができます。3年次編入学生が2年間で卒業を目指す場合は、1年目にSTEP1・STEP2の科目群を中心に履修することに加えて、「論文研究Ⅰ-1~2」「論文研究Ⅱ-1~2」も履修してください。

2. スクーリング科目とテキスト科目の効果的な学び方

前述のように、新入生のみなさんはカリキュラムマップのSTEP1の入門科目であるスクーリング科目「芸術学研修」「芸術学実践」、そしてテキスト科目「芸術論Ⅰ-1 (芸術学入門)」をできるだけ初年度に履修するようにしてください。スクーリングで芸術学の最も基礎的な知識や考え方を学び、それらをテキスト科目で活用するという効果的な学習の流れとなっています。また、同じくSTEP1の芸術学科専門教育科目群のうち、スクーリング科目「芸術学概論」とテキスト科目「芸術学基礎」、スクーリング科目「美術史学概論」とテキスト科目「美術史学基礎」も同年度にセットで履修して、各分野の基礎知識を体系的に身に付けましょう。STEP2では【芸術作品とじっくり向き合う】にある「芸術論Ⅰ-3(芸術鑑賞Ⅰ 日本・東洋)」「芸術論Ⅰ-4 (芸術鑑賞Ⅱ 西洋)」は分野は異なれども同じアプローチのテキスト科目ですのでセットで履修しましょう。また、【資料を読み・研究に活用する】にあるスクーリング科目とテキスト科目をセットで履修すると、より高い学習効果を得ることができます(以上、カリキュラムマップの※1~※5参照)。

なお、「芸術学Ⅰ-1~2」「芸術学Ⅱ-1~4」は、本学大学院芸術環境専攻の科目を芸術学コースの学生の方にも開放する形態で開講しています。そのため、授業は大学院の学生と一緒に受講することになりますので、初学者向け科目ではありません。

3. コース専門教育科目以外からも学ぶ

コース専門教育科目以外にも、学科専門教育科目、学部共通専門教育科目、総合教育科目が用意されています。これらの科目を合わせて履修することによって、より幅広い知識・教養を身につけることができます。そうすることで、コース関連科目の理解もさらに深まるはずです。

また、一般公開講座「藝術学舎」でもコースの学修に関連する講座が春夏秋冬の四季ごとに開講されています。それらは本学通信教育課程の単位として認定されるものが多数あります。コースの授業とはまた角度が異なる多彩な内容になっていますので、各季に発行されるパンフレットで講座内容を確認した上で受講されることをお勧めします。

3. 2023年度の主な変更事項および注意点

【変更点】

1. レポートの提出方法について

2023年度より、TR科目のレポート提出方法が「Web・郵送・窓口」のものについては「Web」のみに変更になります。なお、「郵送・窓口」提出のものについてはこれまで通り変更ありません。これに伴い、「Web」提出と「郵送・窓口」提出のもので提出期間が異なる場合がありますので、必ずシラバスで提出期間を確認してください。

2. 単位修得試験の受験方法について

対面での単位修得試験は2022年度をもって終了し、2023年度よりWeb試験のみにになります。

3. スクーリングの申し込み方法について

郵送・窓口でのスクーリング申し込みは2022年度をもって終了し、2023年度よりWeb申し込みのみにになります。

4. 2024年度文芸コース「手のひら芸大」移行に伴う閉講科目について

2024年度より文芸コースは「週末芸大」から「手のひら芸大」へ移行します。それに伴い2023年度で閉講する科目がありますので、履修したい科目がある場合は今年度中に履修するようにしてください。閉講科目については本コースガイドp.5を確認してください。

【注意点】

1. 遠隔化にかかわるサポートについて

- ・2020年度以前入学の方でインターネット環境の利用が難しい場合は、個別に事務局までご相談ください。
 - －「卒業要件」「卒業研究着手要件」にかかわる科目が遠隔開講で受講が困難な場合
 - －airUマイページからのスクーリングレポート提出が困難な場合 など。
- ・airUマイページやZoom等の基本的な利用方法については、年度当初に行われるガイダンスや資料等を準備しています。随時airUマイページ「お知らせ」で周知していきますので確認してください。なお、総合教育科目に「オンライン授業入門」を開講していますが、これまでにパソコンやインターネットを利用したことがない方に向けた内容になっています。ガイダンス資料等と重複する内容も多いことをあらかじめご了承ください。

2. スクーリングの申し込みにあたって

スクーリングは、必ず各科目のシラバスを確認して、開講時間・課題・受講地（開講形態）・授業計画などについて十分理解した上で申し込んでください。

- ・開講時間の注意
講義系は1日目3講時＋2日目5講時（0.5講時の授業後試験含む）、演習系は両日5講時の授業です。ただし、一部の科目では1日目と2日目で各4講時ずつの場合や、フィールドワークや遠隔の科目などでは不規則な授業時間となる場合があります。
- ・事前課題/事後課題/受講地（開講形態）などの注意
会場が【京都】【東京】【学外】でも、事前にWebを使った学習が含まれる場合があります。また、「履修の前提条件」として事前課題の提出が求められる場合で、提出をしなかった場合、そのスクーリングは単位認定対象になりません。
- ・同時配信科目の場合
同日に対面・遠隔両方のクラスが行われる同時配信科目においては、スクーリング申し込み時点で受講方法が決まります。後日の選択制ではありません。

4. 専門教育科目一覧

卒業に必要な単位に関しては、本『コースガイド』pp.7～9をお読みください。

入学年度によって卒業要件が□新要件、■旧要件となりますので、それぞれの要件の履修を行ってください。

□新要件	2019年度以降入学（1年次入学、3年次編入学）
■旧要件	2015～2018年度入学（1年次入学、2・3年次編入学）

科目一覧					卒業要件					配 当 年 次 (注2)	
科目群	科目 区分	科目 コード	科目名 (注1)	単位 数	S ／ T	■新要件		■旧要件			
						1年次入学 124単位以上 (専門60単位以上)	3年次編入学 62単位以上 (専門60単位以上)	1年次入学 124単位以上 (専門60単位以上)	3年次編入学 62単位以上 (専門60単位以上)		3年次編入学 62単位以上 (専門36単位以上)
専門教育科目	芸術学科専門教育科目	50251	芸術学基礎	2	TR	●	●	「芸術学基礎」「芸術学演習Ⅰ-2～3」よりいずれか2科目選択必修			1年次～
		50252	美術史学基礎 ※2019年度より新設	2	TR	●	●				
		50253	地域芸術理論 ※2019年度より新設	2	TR						
		50254	京都学入門	2	TR						
		50255	史科学基礎	2	TR						
		50256	史料講読基礎	2	TR						
		50257	文化批評概論 ※2023年度まで開講	2	TR						
		50264	日本文化の源流	2	TR						
		50265	日本文化と東アジア	2	TR						
		50266	日本の生活文化	2	TR						
		50101	芸術学概論	1	S	●	●				
		50102	日本美術論	1	S						
		50103	西洋美術論	1	S						
		50104	アジア美術論	1	S						
		50105	美術史学概論 ※2019年度より新設	1	S	●	●				
		50106	音楽文化論	1	S						
		50107	京都の歴史	1	S						
		50108	文献資料講読	1	S						
		50109	京都学研修1 ※2019年度より新設	1	S						
		50110	京都学研修2	1	S						
		50111	江戸の歴史	1	S						
		50112	神話学入門 ※2023年度まで開講	1	S						
		50113	世界の古典を読む ※2023年度まで開講	1	S						
		50114	日本の古典を読む ※2023年度まで開講	1	S						
		50115	京都の文芸 ※2023年度まで開講	1	S						
		50116	短歌と俳句 ※2023年度まで開講	1	S						
		50117	インタビューと取材の方法論 ※2023年度まで開講	1	S						
		50219	伝統芸能の諸相	1	S						
		50220	伝統芸能と工芸	1	S						
		50222	詩歌と日本文化	1	S						
		50223	花道文化の展開	1	S						
		50224	伝統文化の空間	1	S						
		50225	室礼ともてなし	1	S						
			仏教美術論 ※2018年度まで開講	2	S						
			文化芸術遺産フィールドワーク1 ※2018年度まで開講	1	S						
			文化芸術遺産フィールドワーク2 ※2018年度まで開講	1	S						
			文化芸術遺産フィールドワーク3 ※2018年度まで開講	1	S						
			文化芸術遺産フィールドワーク4 ※2018年度まで開講	1	S						
			地域芸術学フィールドワーク ※2018年度まで開講	1	S						
			絵画と日本文化 ※2018年度まで開講	1	S						
	茶道文化の展開 ※2018年度まで開講	1	S								
50227	論文研究基礎	1	S								
50268	論文研究基礎演習	2	TX								
50232	論文研究特論	1	S								
50269	論文研究Ⅰ-2	1	TX	●	●	●	●	●	3年次～		
50270	論文研究Ⅱ-2	1	TX	●	●	●	●	●			
50228	論文研究Ⅰ-1	1	S	●	●	●	●	●			
50229	論文研究Ⅱ-1	1	S	●	●	●	●	●			
50267	論文研究Ⅲ	2	TX						4年次～		
50691	卒業研究	8	TX	●	●	●	●	●			

※TR：テキストレポート科目、TX：テキスト特別科目、S：スクーリング科目、●：必修科目

科目一覧						卒業要件					配 当 年 次 (注2)
科目群	科目 区分	科目 コード	科目名 (注1)	単位 数	S ／ T	□新要件		■旧要件			
						1年次入学 124単位以上 (専門60単位以上)	3年次編入学 62単位以上 (専門60単位以上)	1年次入学 124単位以上 (専門60単位以上)	3年次編入学 62単位以上 (専門60単位以上)	3年次編入学 62単位以上 (専門36単位以上)	
専門教育科目	コース専門教育科目		芸術学基礎講義 ※2018年度まで開講	2	TX						1年次～
		51612	芸術論Ⅰ-1 (芸術学入門)	2	TR	●	●				
			芸術論Ⅰ-2 (デザイン理論) ※2018年度まで開講	2	TR						
		51614	芸術論Ⅰ-3 (芸術鑑賞1:日本・東洋)	2	TR	●	●	芸術論Ⅰ-1～6 よりいずれか 2科目を選択必修	芸術論Ⅰ-1～6 よりいずれか 2科目を選択必修		
		51615	芸術論Ⅰ-4 (芸術鑑賞2:西洋)	2	TR	●	●				
		51616	芸術論Ⅰ-5 (美術館・博物館の教育普及)	2	TR						
			芸術論Ⅰ-6 (地域学) ※2018年度まで開講	2	TR						
			芸術学演習Ⅰ-1(芸術学基礎演習) ※2018年度まで開講	2	TX			「芸術学基礎」 「芸術学演習 Ⅰ-2～3」 よりいずれか 2科目選択必修	「芸術学基礎」 「芸術学演習 Ⅰ-2～3」 よりいずれか 2科目選択必修		
		51619	芸術学演習Ⅰ-2 (美術批評)	2	TR	●	●				
			芸術学演習Ⅰ-3 (批評の実践) ※2018年度まで開講	2	TX						
		51621	芸術学資料論Ⅰ-1 (資料の講読:日本・東洋) ※2019年度より新設	2	TR	芸術学資料論 Ⅰ-1～2より いずれか1科目を 選択必修	芸術学資料論 Ⅰ-1～2より いずれか1科目を 選択必修				
		51622	芸術学資料論Ⅰ-2 (資料の講読:西洋) ※2019年度より新設	2	TR						
		51113	芸術学研修	1	S	●	●	●	●		
		51114	芸術学実践	1	S	●	●	●	●		
		51115	芸術学Ⅰ-1 (芸術理論:芸術環境を巡る諸問題)	1	S	芸術学Ⅰ-1～5 よりいずれか 2科目を選択必修	芸術学Ⅰ-1～5 よりいずれか 2科目を選択必修	芸術学Ⅰ-1～5 よりいずれか 2科目を選択必修	芸術学Ⅰ-1～5 よりいずれか 2科目を選択必修		
		51116	芸術学Ⅰ-2 (芸術理論:芸術学原論(祭礼と感性))	1	S						
		51117	芸術学Ⅰ-3 (芸術理論:舞踊論)	1	S						
		51118	芸術学Ⅰ-4 (芸術理論:表象行為論)	1	S						
		51119	芸術学Ⅰ-5 (芸術理論:視覚文化論)	1	S						
		51120	芸術学Ⅱ-1 (芸術史:写真の諸相)	1	S	芸術学Ⅱ-1～5 よりいずれか 2科目を選択必修	芸術学Ⅱ-1～5 よりいずれか 2科目を選択必修	芸術学Ⅱ-1～5 よりいずれか 2科目を選択必修	芸術学Ⅱ-1～5 よりいずれか 2科目を選択必修		
		51121	芸術学Ⅱ-2 (芸術史:西洋芸術史の諸問題)	1	S						
		51122	芸術学Ⅱ-3 (芸術史:日本芸術史の諸問題)	1	S						
		51123	芸術学Ⅱ-4 (芸術史:東洋芸術史の諸問題)	1	S						
		51124	芸術学Ⅱ-5 (芸術史:西洋音楽の諸相)	1	S						
		51125	芸術学Ⅲ-1 (美術資料の読み方:日本・東洋)	1	S	●	●				
		51126	芸術学Ⅲ-2 (美術資料の読み方:西洋)	1	S	●	●				
その他	総合教育科目・学部共通専門教育科目・コース専門教育科目・資格関連科目などから自由に選択。										
総合計						124単位以上	62単位以上	124単位以上	62単位以上	62単位以上	

TR：テキストレポート科目、TX：テキスト特別科目、S：スクーリング科目、●：必修科目

注1) 2018年度まで旧科目名で開講していた科目は、p.19の新旧科目対応表で確認してください。旧科目名で単位修得済の場合、履修することはできません。

注2) 配当年次：スムーズに履修がなされるための規定であり、その年次に到達しないと履修はできません。さらに科目に別途履修条件がある場合は、その条件を満たす必要があります。

5. 卒業要件、卒業研究着手要件

「卒業要件」とは、卒業するために定められている最低単位数や必修科目のことです。

芸術学コースの場合は、その必修科目の一つが「卒業研究」です。

「卒業研究」に着手するためには、その前年度末までに、いくつか要件を満たしておかなければなりません。これを「卒業研究着手要件」といいます。

「卒業要件」や「卒業研究着手要件」は入学区分によって、以下のように定められています。自分の希望の年度にこの要件を満たし、「卒業研究」に着手できるよう、また卒業できるよう、pp.14～18の履修モデルを参考に、計画的に学習に取り組んでください。

■新要件（2019年度以降入学）

1年次入学（卒業要件124単位以上）

	科目群	修得すべき単位数	備考（左記のうち、修得すべき科目など）
卒業研究 着手要件	学部共通専門教育科目	8単位以上	
	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	24 単位 以上 T科目： 12単位以上 S科目： 6単位以上	「芸術学基礎」「芸術論Ⅰ-1」「芸術論Ⅰ-3」 「芸術論Ⅰ-4」「芸術学演習Ⅰ-2」 「論文研究Ⅰ-2」「論文研究Ⅱ-2」必修
	その他（注1）	58単位以上	「論文研究Ⅰ-1」「論文研究Ⅱ-1」必修
	合計	90単位以上	3年以上在学していること（休学期間を除く）
卒業要件	学部共通専門教育科目	12単位以上	
	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	48 単位 以上 T科目： 24単位以上 S科目： 12単位以上	「芸術学基礎」「美術史学基礎」 「芸術論Ⅰ-1」「芸術論Ⅰ-3」「芸術論Ⅰ-4」 「芸術学演習Ⅰ-2」必修、 「芸術学資料論Ⅰ-1～2」から1科目選択必修、 「論文研究Ⅰ-2」「論文研究Ⅱ-2」「卒業研究」必修 「芸術学概論」「美術史学概論」「芸術学研修」 「芸術学実践」必修、 「芸術学Ⅰ-1～5」から2科目選択必修、 「芸術学Ⅱ-1～5」から2科目選択必修、 「芸術学Ⅲ-1」「芸術学Ⅲ-2」 「論文研究Ⅰ-1」「論文研究Ⅱ-1」必修
	その他（注1）	64単位以上	
	合計	124単位以上	S科目30単位以上

3年次編入学（卒業要件62単位以上、専門60単位以上）

「入学許可証・卒業要件通知」の総合計に「履修免除62単位（うちスクーリング科目6単位）」の記載がある方は以下に該当します。

	科目群	修得すべき単位数	備考（左記のうち、修得すべき科目など）
卒業研究 着手要件	学部共通専門教育科目	8単位以上	
	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	24 単位 以上 T科目： 12単位以上 S科目： 6単位以上	「芸術学基礎」「芸術論Ⅰ-1」「芸術論Ⅰ-3」 「芸術論Ⅰ-4」「芸術学演習Ⅰ-2」 「論文研究Ⅰ-2」「論文研究Ⅱ-2」必修
	合計	32単位以上	1年以上在学していること（休学期間を除く）
卒業要件	学部共通専門教育科目	12単位以上	
	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	48 単位 以上 T科目： 24単位以上 S科目： 12単位以上	「芸術学基礎」「美術史学基礎」 「芸術論Ⅰ-1」「芸術論Ⅰ-3」「芸術論Ⅰ-4」 「芸術学演習Ⅰ-2」必修、 「芸術学資料論Ⅰ-1～2」から1科目選択必修、 「論文研究Ⅰ-2」「論文研究Ⅱ-2」「卒業研究」必修 「芸術学概論」「美術史学概論」「芸術学研修」 「芸術学実践」必修、 「芸術学Ⅰ-1～5」から2科目選択必修、 「芸術学Ⅱ-1～5」から2科目選択必修、 「芸術学Ⅲ-1」「芸術学Ⅲ-2」 「論文研究Ⅰ-1」「論文研究Ⅱ-1」必修
	その他（注1）	2単位以上	
	合計	62単位以上	S科目24単位以上

旧要件（2015～2018年度入学）

1年次入学（卒業要件124単位以上）

	科目群	修得すべき単位数	備考（左記のうち、修得すべき科目など）
卒業研究 着手要件	専門教育科目	学部共通専門教育科目	8単位以上
	専門教育科目	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	24 単位 以上 T科目： 12単位以上 S科目： 6単位以上
		その他（注1）	58単位以上
	合計	90単位以上	3年以上在学していること（休学期間を除く）
卒業要件	専門教育科目	学部共通専門教育科目	12単位以上
	専門教育科目	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	48 単位 以上 T科目： 24単位以上 S科目： 12単位以上
		その他（注1）	64単位以上
	合計	124単位以上	S科目30単位以上

3年次編入学（卒業要件62単位以上、専門60単位以上）

「入学許可証・卒業要件通知」の総合計に「履修免除62単位（うちスクーリング科目6単位）」の記載がある方は以下に該当します。

	科目群	修得すべき単位数	備考（左記のうち、修得すべき科目など）
卒業研究 着手要件	専門教育科目	学部共通専門教育科目	8単位以上
	専門教育科目	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	24 単位 以上 T科目： 12単位以上 S科目： 6単位以上
		その他（注1）	32単位以上
	合計	32単位以上	1年以上在学していること（休学期間を除く）
卒業要件	専門教育科目	学部共通専門教育科目	12単位以上
	専門教育科目	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	48 単位 以上 T科目： 24単位以上 S科目： 12単位以上
		その他（注1）	2単位以上
	合計	62単位以上	S科目24単位以上

3年次編入学（卒業要件62単位以上、専門36単位以上）

「入学許可証・卒業要件通知」の総合計に「履修免除62単位（うちスクーリング科目18単位）」の記載がある方は以下に該当します。

	科目群	修得すべき単位数	備考（左記のうち、修得すべき科目など）
卒業研究 着手要件	専門教育科目	学部共通専門教育科目	8単位以上
	専門教育科目	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	T科目： 4単位以上 S科目： 6単位以上
		その他（注1）	10単位以上
	合計	28単位以上	1年以上在学していること（休学期間を除く）
卒業要件	専門教育科目	学部共通専門教育科目	12単位以上
	専門教育科目	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	T科目： 12単位以上 S科目： 12単位以上
		その他（注1）	26単位以上
	合計	62単位以上	

注1)：「その他」については、総合教育科目・学部共通専門教育科目・学科専門教育科目・コース専門教育科目・資格関連科目などから自由に選択し、合計単位数を満たすこと。

注2)：以下の科目を修得している場合は、これに替えるものとする。

「論文研究Ⅰ－1～2」：「論文研究1」（2014年度まで開講）

「論文研究Ⅱ－1～2」：「論文研究2」（2014年度まで開講）

「芸術学基礎」：「芸術学演習Ⅰ－1」（2018年度まで開講）

※2年次編入学の卒業研究着手要件および卒業要件について、専門教育科目の単位数は3年次編入学（卒業要件62単位・専門60単位以上）と同じ。ただし、着手要件については合計が50単位以上、かつ2年以上在学していること（休学期間を除く）。卒業要件は合計84単位以上であること。

6. カリキュラムマップ

卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための科目が、どのように配置されているのか、各科目の関係性や配当年次などを示した、カリキュラムの体系性が俯瞰できる図です。履修計画の参考にしてください。

step1 芸術学を学び始める

◆専門性を深める 芸術学コース専門教育科目

【芸術学コースの入門】

S1	芸術学研修	※1
TR2	芸術論Ⅰ-1 (芸術学入門)	※1
S1	芸術学実践	※1

step2 専門的な知識を身に付ける

【芸術作品とじっくり向きあう】

TR2	芸術論Ⅰ-3 (芸術鑑賞1 日本・東洋)	※4
TR2	芸術論Ⅰ-4 (芸術鑑賞2 西洋)	※4
TR2	芸術学演習Ⅰ-2 (美術批評)	
TR2	芸術論Ⅰ-5 (美術館・博物館の教育普及)	

【資料を読み・研究に活用する】

S1	芸術学Ⅲ-1 (美術資料の読み方：日本・東洋)	※5
S1	芸術学Ⅲ-2 (美術資料の読み方：西洋)	※5
TR2	芸術学資料論Ⅰ-1 (資料の講読：日本・東洋)	※5
TR2	芸術学資料論Ⅰ-2 (資料の講読：西洋)	※5

◆知識を広める 芸術学科専門教育科目

【芸術論・理論の入門】

S1	芸術学概論	※2
TR2	芸術学基礎	※2

【美術史の入門】

S1	美術史学概論	※3
TR2	美術史学基礎	※3

【芸術論・理論の各論を学ぶ】

S1	音楽文化論	
TR2	地域芸術理論	

【美術史の各論】

S1	日本美術論	
S1	西洋美術論	
S1	アジア美術論	

◆論理的に考察し、説得力のある結論を導く 卒業研究関連科目

【論文・試論作成の基礎を学ぶ】

S1	論文研究基礎	
TX2	論文研究基礎演習	

※の同番号はセット履修推奨科目

step3 研究の現在を学ぶ

step4 自身の研究の完成を目指す

【芸術論・理論の研究を学ぶ】

S1 芸術学Ⅰ-1 (芸術理論：芸術環境を巡る諸問題)

S1 芸術学Ⅰ-2 (芸術理論：芸術学原論〔祭礼と感性〕)

S1 芸術学Ⅰ-3 (芸術理論：舞踊論)

S1 芸術学Ⅰ-4 (芸術理論：表象行為論)

S1 芸術学Ⅰ-5 (芸術理論：視覚文化論)

【美術史の研究を学ぶ】

S1 芸術学Ⅱ-1 (芸術史：写真の諸相)

S1 芸術学Ⅱ-2 (芸術史：西洋芸術史の諸問題)

S1 芸術学Ⅱ-3 (芸術史：日本芸術史の諸問題)

S1 芸術学Ⅱ-4 (芸術史：東洋芸術史の諸問題)

S1 芸術学Ⅱ-5 (芸術史：西洋音楽の諸相)

研究方法と 幅広い知識の習得

【自分の論文・試論のテーマを絞り込む】

S1 芸 論文研究Ⅰ-1

TX1 芸 論文研究Ⅰ-2

S1 芸 論文研究Ⅱ-1

TX1 芸 論文研究Ⅱ-2

TX2 芸 論文研究Ⅲ

※履修上、必要な学生のみ

研究の
総仕上げ

【論文・試論の執筆】

TX8 芸 卒業研究

自分の専門領域を決定する

7. 芸術学科専門教育科目 スクーリング日程

○同一科目で複数日程がある場合は、いずれかの日程を選択して履修してください。

配当年次	科目名	スクーリングコード	スクーリング名称	単位	会場	日程	開講期
1年次～	芸術学概論	5010101001	芸術学概論T1	1	東京■	6/17(土)～6/18(日)	春期
		5010101002	芸術学概論E1	1	遠隔	6/17(土)～6/18(日)	春期
		5010101003	芸術学概論K1	1	京都	7/8(土)～7/9(日)	夏期
		5010101004	芸術学概論E2	1	遠隔	7/8(土)～7/9(日)	夏期
	日本美術論	5010201001	日本美術論E1	1	遠隔	7/15(土)～7/16(日)	夏期
		5010201002	日本美術論E2	1	遠隔	11/25(土)～11/26(日)	秋期
	西洋美術論	5010301001	西洋美術論E1	1	遠隔	9/2(土)～9/3(日)	夏期
		5010301002	西洋美術論E2	1	遠隔	11/4(土)～11/5(日)	秋期
	アジア美術論	5010401001	アジア美術論E1	1	遠隔	5/13(土)～5/14(日)	春期
		5010401002	アジア美術論E2	1	遠隔	11/18(土)～11/19(日)	秋期
	美術史学概論	5010501001	美術史学概論K1	1	京都	11/11(土)～11/12(日)	秋期
		5010501002	美術史学概論E1	1	遠隔	11/11(土)～11/12(日)	秋期
		5010501003	美術史学概論T1	1	東京■	12/16(土)～12/17(日)	秋期
		5010501004	美術史学概論E2	1	遠隔	12/16(土)～12/17(日)	秋期
	音楽文化論	5010601001	音楽文化論E1	1	遠隔	8/19(土)～8/20(日)	夏期
		5010601002	音楽文化論E2	1	遠隔	8/26(土)～8/27(日)	夏期
	京都の歴史	5010701001	京都の歴史E1	1	遠隔	7/1(土)～7/2(日)	夏期
		5010701002	京都の歴史E2	1	遠隔	9/2(土)～9/3(日)	夏期
		5010701003	京都の歴史T1	1	東京■	9/2(土)～9/3(日)	夏期
	文献資料講読	5010801001	文献資料講読E1	1	遠隔	5/14(日)	春期
		5010801002	文献資料講読E2	1	遠隔	10/7(土)	秋期
	京都学研修1	5010901001	京都学研修1EK1	1	遠隔+京都	11/4(土)	秋期
		5010901002	京都学研修1EK2	1	遠隔+京都	11/5(日)	秋期
	京都学研修2	5011001001	京都学研修2K1	1	京都	4/22(土)～4/23(日)	春期
		5011101001	江戸の歴史T1	1	東京■	9/16(土)～9/17(日)	夏期
	江戸の歴史	5011101002	江戸の歴史E1	1	遠隔	9/16(土)～9/17(日)	夏期
		5011201001	神話学入門E1	1	遠隔	2024/1/27(土)～1/28(日)	冬期
	神話学入門	5011201002	神話学入門E2	1	遠隔	2024/2/3(土)～2/4(日)	冬期
		5011301001	世界の古典を読むE1	1	遠隔	7/1(土)～7/2(日)	夏期
	世界の古典を読む	5011301002	世界の古典を読むE2	1	遠隔	7/8(土)～7/9(日)	夏期
		5011401001	日本の古典を読むE1	1	遠隔	9/9(土)～9/10(日)	夏期
	日本の古典を読む	5011401002	日本の古典を読むE2【2講時開始】	1	遠隔	2024/1/13(土)～1/14(日)	冬期
		5011501001	京都の文芸K1	1	京都	10/14(土)～10/15(日)	秋期
	京都の文芸	5011601001	短歌と俳句K1【2講時開始】	1	京都	10/21(土)～10/22(日)	秋期
		5011601002	短歌と俳句T1	1	東京■	12/16(土)～12/17(日)	秋期
	インタビューと取材の方法論	5011701001	インタビューと取材の方法論K1	1	京都	9/30(土)～10/1(日)	夏期
		5011701002	インタビューと取材の方法論E1	1	遠隔	10/21(土)～10/22(日)	秋期
	伝統芸能の諸相	5021901001	伝統芸能の諸相E1	1	遠隔	6/3(土)～6/4(日)	春期
		5021901002	伝統芸能の諸相E2	1	遠隔	5/20(土)～5/21(日)	春期
	伝統芸能と工芸	5022001001	伝統芸能と工芸E1	1	遠隔	9/9(土)～9/10(日)	秋期
		5022001002	伝統芸能と工芸E2	1	遠隔	10/14(土)～10/15(日)	秋期
		5022001003	伝統芸能と工芸E1【1講時開始】	1	遠隔+東京■	10/14(土)～10/15(日)	秋期
		5022201001	詩歌と日本文化E1	1	遠隔	10/14(土)～10/15(日)	秋期
2年次～	論文研究基礎	5022201002	詩歌と日本文化E2	1	遠隔	12/9(土)～12/10(日)	秋期
		5022301001	花道文化の展開E1	1	遠隔	10/7(土)～10/8(日)	秋期
		5022401001	伝統文化の空間K1	1	京都	10/28(土)～10/29(日)	秋期
		5022401002	伝統文化の空間E1	1	遠隔	6/17(土)～6/18(日)	春期
	伝統文化の空間	5022501001	室礼ともてなしE1	1	遠隔	7/1(土)～7/2(日)	夏期
		5022501002	室礼ともてなしE2	1	遠隔	9/16(土)～9/17(日)	夏期
	論文研究基礎	5022701002	論文研究基礎E1	1	遠隔+東京■	6/3(土)	春期
		5022701003	論文研究基礎E2	1	遠隔+東京■	6/4(日)	春期
		5022701004	論文研究基礎EK1	1	遠隔+京都	7/8(土)	夏期
		5022701005	論文研究基礎EK2	1	遠隔+京都	7/9(日)	夏期
		5022701006	論文研究基礎E2	1	遠隔	9/9(土)	夏期
		5022701007	論文研究基礎E3	1	遠隔	9/10(日)	夏期
		5022701008	論文研究基礎EK3	1	遠隔+京都	9/30(土)	夏期
		5022701009	論文研究基礎EK4	1	遠隔+京都	12/23(土)	秋期
		5022701010	論文研究基礎ET3	1	遠隔+東京■	12/23(土)	秋期
		5022701011	論文研究基礎E4	1	遠隔	2024/2/17(土)	冬期
		5022801001	論文研究Ⅰ-1(芸/卒研は京都)	1	遠隔	7/22(土)～7/23(日)	夏期
		5022801002	論文研究Ⅰ-1(歴/卒研は京都)	1	遠隔	7/22(土)～7/23(日)	夏期
3年次～	論文研究Ⅰ-1(芸歴和)	5022801003	論文研究Ⅰ-1(和/卒研は京都)	1	遠隔	7/22(土)～7/23(日)	夏期
		5022801004	論文研究Ⅰ-1(芸/卒研は東京)	1	遠隔	7/29(土)～7/30(日)	夏期
		5022801005	論文研究Ⅰ-1(歴/卒研は東京)	1	遠隔	7/29(土)～7/30(日)	夏期
		5022801006	論文研究Ⅰ-1(和/卒研は東京)	1	遠隔	7/29(土)～7/30(日)	夏期
		5022901001	論文研究Ⅱ-1(芸歴和)a【美芸/卒研は京都】	1	遠隔	11/25(土)～11/26(日)	秋期
		5022901002	論文研究Ⅱ-1(芸歴和)b【歴伝/卒研は京都】	1	遠隔	12/2(土)～12/3(日)	秋期
	論文研究Ⅱ-1(芸歴和)	5022901003	論文研究Ⅱ-1(芸歴和)c【美芸/卒研は東京】	1	遠隔	12/2(土)～12/3(日)	秋期
		5022901004	論文研究Ⅱ-1(芸歴和)d【歴伝/卒研は東京】	1	遠隔	11/25(土)～11/26(日)	秋期
	論文研究Ⅰ-1(文芸)	5023001001	論文研究Ⅰ-1(文芸)【A/卒研は京都】	1	遠隔	9/23(土)～9/24(日)	夏期
		5023001002	論文研究Ⅰ-1(文芸)【B/卒研は東京】	1	遠隔	9/16(土)～9/17(日)	夏期
	論文研究Ⅱ-1(文芸)	5023101001	論文研究Ⅱ-1(文芸)【A/卒研は京都】	1	遠隔	12/16(土)～12/17(日)	秋期
		5023101002	論文研究Ⅱ-1(文芸)【B/卒研は東京】	1	遠隔	12/23(土)～12/24(日)	秋期
	論文研究特論	5023201001	論文研究特論E1	1	遠隔	8/26(土)～8/27(日)	夏期
		5023201002	論文研究特論E2	1	遠隔	10/28(土)～10/29(日)	秋期
4年次	卒業研究(芸歴和)	50691	卒業研究(芸歴和)面接指導①a【美芸/京都】		京都	5/27(土)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)面接指導①b【歴伝/京都】		京都	5/28(日)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)面接指導①c【美芸/東京】		東京■	5/28(日)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)面接指導①d【歴伝/東京】		東京■	5/27(土)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)面接指導②a【美芸/京都】		京都	8/19(土)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)面接指導②b【歴伝/京都】		京都	8/20(日)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)面接指導②c【美芸/東京】		東京■	8/20(日)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)面接指導②d【歴伝/東京】		東京■	8/19(土)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)口頭試問a【美芸/京都】		京都	2024/1/20(土)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)口頭試問b【歴伝/京都】		京都	2024/1/21(日)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)口頭試問c【美芸/東京】		東京■	2024/1/21(日)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)口頭試問d【歴伝/東京】		東京■	2024/1/20(土)	—
	卒業研究(文芸)	50692	卒業研究(文芸)面接指導①		京都	5/20(土)～5/21(日)	—
		50692	卒業研究(文芸)面接指導②		東京■	5/20(土)～5/21(日)	—
		50692	卒業研究(文芸)面接指導③		京都	8/26(土)～8/27(日)	—
		50692	卒業研究(文芸)面接指導④		東京■	8/26(土)～8/27(日)	—
卒業研究(文芸)		50692	卒業研究(文芸)口頭試問		京都	2024/1/27(土)～1/28(日)	—
		50692	卒業研究(文芸)口頭試問		東京■	2024/1/27(土)～1/28(日)	—

- ・各申込スケジュールはairU学習ガイドを確認してください。
- ・「会場」欄の「遠隔+京都」、「遠隔+東京」の日程は、web学習（事前課題）に加え、対面授業への参加が必須です。詳細は各シラバス参照。
- ・4年次科目は「卒業研究」(TX 科目)に伴う対面授業（遠隔希望可）のため「スクーリング日程」に含めています。指定された会場・日時に出席する必要があります。

8. 芸術学コース専門教育科目 スクーリング日程

配当年次	科目名	スクーリングコード	スクーリング名称	単位	会場	日程	開講期
1年次～	芸術学研修	5111301001	芸術学研修E1	1	遠隔	5/20(土)～5/21(日)	春期
		5111301002	芸術学研修K1	1	京都	6/24(土)～6/25(日)	春期
	芸術学実践	5111401001	芸術学実践(音)T1	1	東京■	10/14(土)～10/15(日)	秋期
		5111401002	芸術学実践(ディスクリプション)E1	1	遠隔	2024/1/13(土)～1/14(日)	秋期
	芸術学Ⅰ-1	5111501001	芸術学Ⅰ-1 (芸術理論:芸術環境を巡る諸問題)T1	1	東京■	9/30(土)～10/01(日)	夏期
		5111501002	芸術学Ⅰ-1 (芸術理論:芸術環境を巡る諸問題)E1	1	遠隔	9/30(土)～10/01(日)	夏期
	芸術学Ⅰ-2	5111601001	芸術学Ⅰ-2 (芸術理論:芸術学原論(祭礼と感性))K1	1	京都	10/21(土)～10/22(日)	秋期
		5111601001	芸術学Ⅰ-2 (芸術理論:芸術学原論(祭礼と感性))E1	1	遠隔	10/21(土)～10/22(日)	秋期
	芸術学Ⅰ-3	5111701001	芸術学Ⅰ-3(芸術理論:舞踊論)K1	1	京都	9/23(土)～9/24(日)	夏期
	芸術学Ⅰ-4	5111801001	芸術学Ⅰ-4(芸術理論:表象行為論)K1	1	京都	10/7(土)～10/8(日)	秋期
	芸術学Ⅰ-5	5111901001	芸術学Ⅰ-5(芸術理論:視覚文化論)E1	1	遠隔	9/9(土)～9/10(日)	夏期
	芸術学Ⅱ-1	5112001001	芸術学Ⅱ-1(芸術史:写真の諸相)K1	1	京都	12/23(土)～12/24(日)	秋期
		5112001002	芸術学Ⅱ-1(芸術史:写真の諸相)E1	1	遠隔	12/23(土)～12/24(日)	秋期
	芸術学Ⅱ-2	5112101001	芸術学Ⅱ-2 (芸術史:西洋芸術史の諸問題)K1	1	京都	12/9(土)～12/10(日)	秋期
	芸術学Ⅱ-3	5112201001	芸術学Ⅱ-3 (芸術史:日本芸術史の諸問題)T1	1	東京■	4/29(土)～4/30(日)	春期
		5112201002	芸術学Ⅱ-3 (芸術史:日本芸術史の諸問題)E1	1	遠隔	4/29(土)～4/30(日)	春期
	芸術学Ⅱ-4	5112301001	芸術学Ⅱ-4 (芸術史:東洋芸術史の諸問題)T1	1	東京■	6/3(土)～6/4(日)	春期
		5112301002	芸術学Ⅱ-4 (芸術史:東洋芸術史の諸問題)E1	1	遠隔	6/3(土)～6/4(日)	春期
	芸術学Ⅱ-5	5112401001	芸術学Ⅱ-5 (芸術史:西洋音楽の諸相)E1	1	遠隔	8/5(土)～8/6(日)	夏期
	芸術学Ⅲ-1	5112501001	芸術学Ⅲ-1 (美術資料の読み方:日本・東洋)E1	1	遠隔	6/10(土)～6/11(日)	春期
		5112501002	芸術学Ⅲ-1 (美術資料の読み方:日本・東洋)E2	1	遠隔	7/1(土)～7/2(日)	夏期
	芸術学Ⅲ-2	5112601001	芸術学Ⅲ-2 (美術資料の読み方:西洋)E1	1	遠隔	4/29(土)～4/30(日)	春期
		5112601002	芸術学Ⅲ-2 (美術資料の読み方:西洋)E2	1	遠隔	10/28(土)～10/29(日)	秋期

・各申込スケジュールはairU学習ガイドを確認してください。

9. 履修モデル

1) 1年次入学生年間履修モデル

1年次入学生（卒業要件124単位以上）が4年間で卒業すると仮定した場合の年間学習モデルを以下に示します。
全体として、卒業研究に集中できるよう高年次になるに従い修得単位数を少なくするようお勧めします。
実際の履修にあたっては各自の関心に応じて適宜科目を入れ替えてください。
履修計画を立てる際は、卒業要件と各科目の開講状況・履修条件等を確認してください。卒業要件については本『コースガイド』pp.7～9を、各科目の開講状況・履修条件等については各科目のシラバスを確認してください。

例えば西洋美術史に興味のある学生が4年で卒業を目指す場合

総合教育科目でさまざまな学問領域に触れるとともに、専門教育科目ではまず美術史系の科目を中心に学んでください。外国語はすすんで取り組んでください。
3年次からは美術を体系立って見る（記述する）さまざまな方法論などを学び、論文研究で研究テーマを設定します。4年次の卒業研究には十分な時間を充てられるようにしてください。

(注1): TR=テキストレポート科目 TX=テキスト特別科目 S=スクーリング科目 WS=ウェブスクーリング科目(スクーリングの単位数に含みます)
(注2): □新: 2019年度以降入学生 ■旧: 2015～2018年度入学生
●=必修科目(必ず単位を修得することが求められる科目)
○=選択必修科目(特定の科目グループのなかから所定の条件に従って科目を選択して必ず単位を修得することが求められる科目)
空白=選択科目(修得するかしないかを含め自由に選択できる科目。ただし卒業要件で定められた修得すべき単位数を最低限選択することが必要(例えば総合計124単位以上を修得すること等))

1年目																	
科目群・区分	科目名	単位数	履修形態 (注1)	□新要件 (注2)	■旧要件 (注2)	春期			夏期			秋期			冬期		
				必修/ 選択	必修/ 選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合教育科目	ことばと表現	1	TR			レポート		試験									
	論述基礎	2	TR						レポート		試験						
	外国語1	2	TR									レポート		試験			
	哲学への案内	2	TR												レポート		試験
	はじめての共通科目	1	S			初回提出	中間講評	最終提出									
	身体と表現	2	S						初回提出	中間講評	最終提出						
	数と世界	2	S												初回提出	中間講評	最終提出
学部共通専門教育科目	芸術理論1	2	TR									レポート		試験			
	芸術理論2	2	TR												レポート		試験
	芸術史講義(日本)1	2	WS			動画視聴	レポート	講評視聴									
	芸術史講義(日本)2	2	WS						動画視聴	レポート	講評視聴						
学科専門教育科目	美術史学基礎	2	TR	●								レポート		試験			
	芸術学基礎	2	TR	●	○										レポート		試験
	芸術学概論	1	S	●				2日間									
	美術史学概論	1	S	●									2日間				
	日本美術論	1	S						2日間								
	アジア美術論	1	S										2日間				
コース専門教育科目	芸術論Ⅰ-1	2	TR	●	○							レポート		試験			
	芸術論Ⅰ-3	2	TR	●	○										レポート		試験
	芸術学研修	1	S	●	●			2日間									
	芸術学実践	1	S	●	●										2日間		
1年目の修得単位数・内訳		34															

2年目																	
科目群・区分	科目名	単位数	履修形態 (注1)	□新要件 (注2)	■旧要件 (注2)	春期			夏期			秋期			冬期		
				必修/ 選択	必修/ 選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合教育科目	学際的な知への案内	2	TR			レポート		試験									
	詩学への案内	2	TR									レポート		試験			
	色彩と形	2	TR									レポート		試験			
	西洋史	2	TR												レポート		試験
	日本の憲法	2	TR												レポート		試験
学部共通専門教育科目	芸術史講義(日本)3	2	WS			動画視聴	レポート	講評視聴									
	芸術史講義(日本)4	2	WS						動画視聴	レポート	講評視聴						
	写真論1	2	TR			レポート		試験									
	写真論2	2	TR												レポート		試験
学科専門教育科目	地域芸術理論	2	TR						レポート		試験						
	論文研究基礎演習	2	TX									レポート					
	音楽文化論	1	S							2日間							
	西洋美術論	1	S								2日間						
	論文研究基礎	1	S					2日間									
コース専門教育科目	芸術論Ⅰ-4	2	TR	●	○				レポート		試験						
	芸術学演習Ⅰ-2	2	TR	●	○							レポート		試験			
	芸術学資料論Ⅰ-1	2	TR	○					レポート		試験						
	芸術学資料論Ⅰ-2	2	TR	○											レポート		試験
	芸術学Ⅲ-1	1	S	●				2日間									
	芸術学Ⅲ-2	1	S	●								2日間					
2年目の修得単位数・内訳		35															

3年目																	
科目群・区分	科目名	単位数	履修形態 (注1)	□新要件 (注2)	■旧要件 (注2)	春期			夏期			秋期			冬期		
				必修/選択	必修/選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合教育科目	日本文化論	2	TR			レポート		試験									
	社会学	2	TR						レポート		試験						
	心理学	2	TR						レポート		試験						
	音楽	2	TR									レポート		試験			
	地域を探索	2	TR									レポート		試験			
	日本史への階段	1	S					2日間									
学部共通専門教育科目	芸術史講義(ヨーロッパ)3	2	WS			動画視聴	レポート	講評視聴									
	芸術史講義(ヨーロッパ)4	2	WS						動画視聴	レポート	講評視聴						
	美学概論	2	TR												レポート		試験
学科専門教育科目	文化批評概論	2	TR												レポート		試験
	史料講読基礎	2	TR									レポート		試験			
	論文研究Ⅰ-1	1	S	●	●				2日間								
	論文研究Ⅰ-2	1	TX	●	●						レポート						
	論文研究Ⅱ-1	1	S	●	●									2日間			
	論文研究Ⅱ-2	1	TX	●	●										レポート		
コース専門教育科目	芸術論Ⅰ-5	2	TR		○	レポート		試験									
	芸術学Ⅰ-3	1	S	○	○						2日間						
	芸術学Ⅰ-4	1	S	○	○							2日間					
	芸術学Ⅱ-2	1	S	○	○									2日間			
	芸術学Ⅱ-4	1	S	○	○			2日間									
3年目の修得単位数・内訳		31															

4年目																	
科目群・区分	科目名	単位数	履修形態 (注1)	□新要件 (注2)	■旧要件 (注2)	春期			夏期			秋期			冬期		
				必修/選択	必修/選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合教育科目	日本史	2	TR						レポート		試験				卒業研究着手者は冬期に卒業関連科目以外の履修ができません		
	文化研究2	2	TR						レポート		試験						
	文化研究3	2	TR			レポート		試験									
	宗教学	2	TR			レポート		試験									
	伝統芸術基礎(茶の湯)	1	S									2日間					
	考古学への階段	1	S				2日間										
学部共通専門教育科目	芸術史講義(ヨーロッパ)1	2	WS			動画視聴	レポート	講評視聴									
	芸術史講義(ヨーロッパ)2	2	WS						動画視聴	レポート	講評視聴						
学科専門教育科目	短歌と俳句	1	S									2日間					
	卒業研究	8	TX	●	●	レポート①	面接指導①	レポート②		面接指導②		レポート③		卒業成果物提出	口頭試問		
コース専門教育科目	芸術学Ⅱ-5	1	S	○	○					2日間							
4年目の修得単位数・内訳		24															

4年間の修得単位数合計・内訳	124単位 (うちS43単位)	総合教育科目 : 計43単位		学部共通専門教育科目 : 計26単位		学科専門教育科目・コース専門教育科目 : 計55単位 (うちS19単位)	

2) 3年次編入生年間履修モデル

3年次編入学生（卒業要件62単位の編入生）が2年間で卒業すると仮定した場合の年間学習モデルを以下に示します。全体として、卒業研究に集中できるよう高年次になるに従い修得単位数を少なくするようお勧めします。

実際の履修にあたっては各自の関心に応じて適宜科目を入れ替えてください。

履修計画を立てる際は、卒業要件と各科目の開講状況・履修条件等を確認してください。卒業要件については本『コースガイド』pp.7～9を、各科目の開講状況・履修条件等については各科目のシラバスを確認してください。

例えば日本美術史に興味のある学生が2年で卒業を目指す場合

要件62単位の方は最短2年で卒業できますが、3年かけても決して遅すぎることはありません。2年で卒業する場合、入学年次に非常に集中的な学習が必要です。専門教育科目ではまず美術史系の科目を中心に学んでください。8月には卒業研究テーマの設定を視野に入れて論文研究を受講してください。入学年度後半からは美術を体系立って見る（記述する）さまざまな方法論などを学び、4年次の卒業研究には十分な時間を充てられるようにしてください。

注1)： TR=テキストレポート科目 TX=テキスト特別科目 S=スクーリング科目 WS=ウェブスクーリング科目（スクーリングの単位数に含みます）
 注2)： □新：2019年度以降入学生 ■旧：2015～2018年度入学生
 ●=必修科目〈必ず単位を修得することが求められる科目〉
 ○=選択必修科目〈特定の科目グループのなかから所定の条件に従って科目を選択して必ず単位を修得することが求められる科目〉
 空白=選択科目〈修得するかしないかを含め自由に選択できる科目。ただし卒業要件で定められた修得すべき単位数を最低限選択することが必要（例えば総合計124単位以上を修得すること等）

1年目																		
科目群・ 区分	科目名	単 位 数	履 修 形 態 (注1)	□新要件 (専門60単 位以上) (注2)	■旧要件 (専門60単 位以上) (注2)	■旧要件 (専門36単 位以上) (注2)	春期			夏期			秋期			冬期		
				必修/ 選択	必修/ 選択	必修/ 選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学部共通専門教育科目	芸術史講義(日本)1	2	WS				動画 視聴	レポート	講評 視聴									
	芸術史講義(日本)2	2	WS							動画 視聴	レポート	講評 視聴						
	芸術理論1	2	TR										レポート		試験			
	芸術理論2	2	TR													レポート		試験
学科専門教育科目	美術史学基礎	2	TR	●									レポート		試験			
	芸術学基礎	2	TR	●	○	○										レポート		試験
	地域芸術理論	2	TR							レポート		試験						
	論文研究基礎演習	2	TX										レポート					
	芸術学概論	1	S	●						2日間								
	美術史学概論	1	S	●											2日間			
	日本美術論	1	S											2日間				
	アジア美術論	1	S					2日間										
	音楽文化論	1	S								2日間							
	西洋美術論	1	S									2日間						
	論文研究基礎	1	S										2日間					
	論文研究Ⅰ-1	1	S	●	●	●				2日間								
	論文研究Ⅰ-2	1	TX	●	●	●						レポート						
	論文研究Ⅱ-1	1	S	●	●	●									2日間			
論文研究Ⅱ-2	1	TX	●	●	●										レポート			
コース専門教育科目	芸術論Ⅰ-1	2	TR	●	○	○							レポート		試験			
	芸術論Ⅰ-3	2	TR	●	○	○										レポート		試験
	芸術論Ⅰ-4	2	TR	●	○	○				レポート		試験						
	芸術学演習Ⅰ-2	2	TR	●	○	○							レポート		試験			
	芸術学資料論Ⅰ-1	2	TR	○												レポート		試験
	芸術学研修	1	S	●	●	●			2日間									
	芸術学実践	1	S	●	●	●										2日間		
	芸術学Ⅲ-1	1	S	●					2日間									
	芸術学Ⅲ-2	1	S	●									2日間					
1年目の修得単位数・内訳		41																

2年目																		
科目群・区分	科目名	単位数	履修形態 (注1)	□新要件 (専門60単位以上) (注2)	■旧要件 (専門60単位以上) (注2)	■旧要件 (専門36単位以上) (注2)	春期			夏期			秋期			冬期		
				必修/選択	必修/選択	必修/選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学部 教育 科目	芸術史講義(近現代)3	2	WS				動画視聴	レポート	講評視聴							卒業研究着手者は冬期に卒業関連科目以外の履修ができません		
	芸術史講義(近現代)4	2	WS							動画視聴	レポート	講評視聴						
学科 教育 科目	文化批評概論	2	TR							レポート		試験						
	卒業研究	8	TX	●	●	●	レポート①	面接指導①	レポート②		面接指導②		レポート③		卒業成果物提出	口頭試問		
コース 専門 教育 科目	芸術論Ⅰ-5	2	TR		○	○	レポート		試験							卒業研究着手者は冬期に卒業関連科目以外の履修ができません		
	芸術学Ⅰ-3	1	S	○	○	○						2日間						
	芸術学Ⅰ-4	1	S	○	○	○							2日間					
	芸術学Ⅱ-2	1	S	○	○	○								2日間				
	芸術学Ⅱ-4	1	S	○	○	○			2日間									
	芸術学Ⅱ-5	1	S		○	○					2日間							
2年目の修得単位数・内訳		21																

2年間の 修得単位数合計・内訳	62単位 (うちS26単位)	学部共通専門教育科目：計12単位	学科専門教育科目・コース専門教育科目 ：計50単位（うちS18単位）
--------------------	-------------------	------------------	---------------------------------------

10. 新旧科目対応表

下表の「旧科目名」で単位修得済の科目は「新科目名」で再度履修することはできません。

■芸術学科専門教育科目

2018年度まで			
旧科目コード	旧科目名	ST	単位数
51618	芸術学演習Ⅰ－1 (芸術学基礎演習)	TX	2
52622	歴史遺産基礎講義1	TR	2
52106	歴史遺産学研修6 (京都の祭)	S	1
52109	歴史遺産Ⅰ－3 (江戸文化論)	S	2
53104	文芸Ⅰ－3 (世界の古典)	S	2
53107	文芸Ⅱ－2 (短歌・俳句・近現代詩)	S	2
53111	文芸Ⅲ－2 (インタビューと調査で書く・ネットメディアに書く)	S	1
53114	文芸Ⅲ－5 (文芸の京都)	S	1
50215	文化史特論	S	2

2014年度まで			
旧科目コード	旧科目名	ST	単位数
50011	芸術学概論	S	2
50010	歴史遺産学概論	S	2
52609	文献講読1 (京都学史料)	T	4
50061	文芸研究1	S	2
50071	伝統文化研究Ⅰ－1	S	1
50072	伝統文化研究Ⅰ－2	S	1
50073	伝統文化研究Ⅰ－3	S	1
50074	伝統文化研究Ⅰ－4	S	1
50075	伝統文化研究Ⅱ－1	S	1
50076	伝統文化研究Ⅱ－2	S	1
50077	伝統文化研究Ⅱ－3	S	1
50078	伝統文化研究Ⅱ－4	S	1
52621	論文研究4	T	2

2019年度から			
新科目コード	新科目名	ST	単位数
50251	芸術学基礎	TR	2
50254	京都学入門	TR	2
50110	京都学研修2	S	1
50111	江戸の歴史	S	1
50113	世界の古典を読む	S	1
50116	短歌と俳句	S	1
50117	インタビューと取材の方法論	S	1
50115	京都の文芸	S	1
50232	論文研究特論	S	1

2015年度から			
新科目コード	新科目名	ST	単位数
50202	芸術学概論	S	2
50213	歴史遺産学概論	S	2
50262	史料講読基礎	TR	2
50263	史料講読応用	TR	2
50217	日本の古典を読む	S	2
50219	伝統芸能の諸相	S	1
50220	伝統芸能と工芸	S	1
50221	絵画と日本文化	S	1
50222	詩歌と日本文化	S	1
50223	花道文化の展開	S	1
50224	伝統文化の空間	S	1
50225	室礼ともてなし	S	1
50226	茶道文化の展開	S	1
50267	論文研究Ⅲ	TX	2

■芸術学コース専門教育科目

2014年度まで			
旧科目コード	旧科目名	ST	単位数
51608	芸術学基礎講義	T	1
51607	地域学	T	4
51601	芸術理論演習1「芸術学基礎」	T	4
51606	表現演習1	T	4
51005	芸術研究5	S	2
51001	芸術研究1	S	2
51009	芸術研究9	S	2
52023	論文研究基礎	S	1
51394	論文研究1	ST	2
51395	論文研究2	ST	2

2015年度から			
新科目コード	新科目名	ST	単位数
51611	芸術学基礎講義	TX	2
51617	芸術論Ⅰ－6	TR	2
51618	芸術学演習Ⅰ－1	TX	2
51619	芸術学演習Ⅰ－2	TX	2
51620	芸術学演習Ⅰ－3	TX	2
51102	芸術学Ⅰ－2	S	2
51104	芸術学Ⅰ－4	S	2
51105	芸術学Ⅰ－5	S	2
50227	論文研究基礎	S	1
50228	論文研究Ⅰ－1	S	1
50269	論文研究Ⅰ－2	TX	1
50229	論文研究Ⅱ－1	S	1
50270	論文研究Ⅱ－2	TX	1

11. 論文研究・卒業研究

「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」（3年次～）、「卒業研究」（4年次）は、各々が自身のテーマを決めて学習の集大成にあたる卒業成果物をまとめあげるための科目です。まずは以下を確認し、各科目の詳細は、該当科目のシラバスを参照してください。

(3年次)	4月	5月	6月	7月	8月
論文研究		「論文研究Ⅰ－1」スクーリング受講申込	・「論文研究Ⅰ－1」 ・発表資料提出	・「論文研究Ⅰ－1」 ・スクーリング受講	
「論文研究Ⅰ－1」スクーリング申込までに… まず、シラバスをよく確認しましょう。そして、テキスト『論文の読み方・書き方』pp.T-3～16をよく読み、研究テーマの設定と史(資)料収集をしましょう。					
(4年次)	4月	5月	6月	7月	8月
卒業研究	レポート①提出	面接指導①	レポート②提出		面接指導②

STEP 1 履修の前提条件を確認しましょう。

「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」「卒業研究」は、履修の前提条件が設定されています。各科目のシラバスの「履修の前提条件」、『コースガイド』の「卒業要件」「卒業研究着手要件」を確認し、計画的に学習を進めていきましょう。

なお、「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」と「卒業研究」は、2年間で連続して受講することが望ましく、また、3年次編入学生が2年間で卒業を目指す場合は、1年目に「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」を修得する必要があります。

STEP 2 研究を始めるための基礎を学びましょう。

「論文研究基礎」（芸術学科専門教育科目/スクーリング科目）

「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」を受講するために必要な基礎知識、学習のしかた、テーマ探しのヒント、論文をまとめる心構えなどを学びます。3年次編入学生が2年間で卒業を目指す場合は「論文研究Ⅰ－1」を受講する前に、本科目を受講されることをお勧めします。

「論文研究基礎演習」（芸術学科専門教育科目/テキスト科目）

すでに書かれた著作や本、論文をどのように使いこなすか、分析していくのか、論文を書くための基礎的、実践的な学習をおこないます。

「論文研究特論」（芸術学科専門教育科目/スクーリング科目）

論文を仕上げていく上での史(資)料の用い方、論証の方法などを、具体的な事例を基に知ることができます。文化史研究の新知見を得るばかりでなく、研究の醍醐味を実感でき卒業研究を深めていく上で参考になります。

9月	10月	11月	12月	1月	2月
「論文研究Ⅰ－2」 課題提出		「卒業研究」に着手するためには、卒業年度の前年度末までに「卒業研究着手要件」を満たす必要があります。今一度、履修状況を確認しましょう。			
「論文研究Ⅱ－1」 スクーリング受講申込 ※追加募集期間に申込		「論文研究Ⅱ－1」 発表資料提出		「論文研究Ⅱ－2」 課題提出	卒業研究レポート① の執筆にとりかかる
		← 「論文研究Ⅱ－1」スクーリング受講 →			
9月	10月	11月	12月	1月	2月
	レポート③提出		最終成果物・ 要約データ提出	口頭試問	

STEP 3 テーマを決定し研究を進めましょう。

「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」は、卒業年次の前年度に受講する科目です。受講にあたっては、「自分自身の研究テーマで、オリジナルな成果物を書く（自分で課題を見出し、解決の方策を探り、成果物を書き上げる）」という能動的な学習意識が必要です。

「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」では、①スクーリング科目で研究の不安や迷いを解消、②テキスト科目でスクーリングの指導をふまえて課題を作成という流れで学習を進めます。

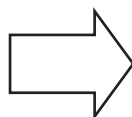
スクーリング科目

- ①「論文研究Ⅰ－1」（7月）
- ③「論文研究Ⅱ－1」（11～12月）

テキスト科目

- ②「論文研究Ⅰ－2」（9月提出）
- ④「論文研究Ⅱ－2」（1月提出）

教員と顔をあわせて相談し、他者の意見を聞くことで、不安や迷いを解消し、自分の研究を客観的に見つめ直し、テーマと研究方法を明確にします。



スクーリングで顕在化した課題に対して自宅で学習を進め、課題を作成します。提出された課題に教員が添削を加えて、次のステップへと導きます。

◆「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」の翌年度に「卒業研究」に着手できない場合

「論文研究Ⅱ－1～2」に合格したにもかかわらず、その他の「卒業研究着手要件」が満たせなかったり、何らかの事由で「卒業研究」の着手を辞退（延期）する場合も、「卒業研究」に向かうための研究は必ず進めておきましょう。「論文研究Ⅱ－1～2」の翌年度に「卒業研究」に着手できなかった方を対象に、「卒業研究」を履修する前年度に研究の進捗状況を報告し、「卒業研究」の準備にあたる課題を作成する、テキスト科目「論文研究Ⅲ」という授業を開講しています。該当する皆さんは、ぜひ履修することをおすすめします。

12. 過去の「卒業成果物」閲覧申込

論文研究・卒業研究の学習を進めるにあたり、過去の卒業成果物を参考にしたい場合は芸術学科在学生でしたら本文全文の閲覧が可能です（2013年度以降のものに限る）。大学に保管が無いものや執筆者が「閲覧不可」としている論文もありますので、閲覧を希望される場合は下記の手順に従い、申し込みを行ってください。

閲覧申込の手順

(1) 卒業成果物を探す

過去の卒業成果物の要約をairUで確認することができます。要約の中から閲覧したい卒業成果物を選んでください。なお、要約の掲載場所は2023年度よりairUキャンパスからairUマイページの教材BOXに移行予定です。詳細はairUマイページのお知らせで掲載します。

(2) 閲覧申込手続きをする

閲覧を希望する場合は、airUマイページの「コンシェルジュ」または「学習・事務手続きに関する質問票」かメール（question@air-u.kyoto-art.ac.jp）で、下記を記載の上申し込んでください。論文を手配する都合上、閲覧希望日の1週間前までに申し込んでください。

件名：卒業論文の閲覧希望

1. 執筆者氏名・執筆年度
2. 執筆者所属コース
3. 論文題目
4. 閲覧希望日時（日程は2候補以上記載してください）
5. 瓜生山キャンパスまたは外苑キャンパス

閲覧方法・注意点

- ・ 瓜生山キャンパスか外苑キャンパスの事務局内でパソコン上または複写した紙媒体での閲覧となります。
- ・ 閲覧は、当日キャンパス内事務局フリースペース内でのみ可能です。閲覧後や席を離れる際は論文を事務局まで戻してください。
- ・ 時間制限は特にありません。一日で閲覧できない場合は再度希望日を申請してください。
- ・ 複写、印刷、撮影は出来ません。なお、ポイントをパソコンまたは手書きでメモすることは制限していません。
- ・ 大学に保管が無いものや執筆者が「閲覧不可」としている論文があります。

13. 学外スクーリングを受講される方へ

●はじめに

学外でのスクーリングでは、博物館、美術館、神社仏閣や歴史的建造物などで研修を行うことがあります。その際には、普段立ち入ることができない場所を訪れる場合もあります。

このような学外でのスクーリングを受講するにあたって、準備しておくといよいものや守らなければならないルールを以下に示しました。大まかには、「文化財に対する配慮」、「団体行動に関する注意」、「体調管理のための持参物」の3点です。しっかり熟読し、理解して、スクーリングに臨んでください。

また、これらの準備物や守るべきルールは、学外スクーリング受講時に限るものではありません。とくに文化財に対する配慮は、過去の人々の営みから生まれ、現在まで守り伝えられてきた文化財を、次の世代に伝えるという点でとても大事な行為です。文化財に接する機会には、「文化財を汚さない、傷めない」ということを意識して行動しましょう。

●学外スクーリングのときの注意点

1：持参物	①筆記用具（鉛筆 [HB～2B]） ②タオル（雨・汗ふき用） ③雨具（折りたたみ傘・カッパ） ④履き替え用の白靴下（建物に上るスクーリング時のみ） ⑤夏のスクーリング時の持参物 ・虫除け・水分補給のためのお茶 ・帽子 夏の学外研修時には日射病・熱射病対策として必ず用意しましょう。日傘は、メモをとるときに妨げとなり、また研修先によってはさせないので、避けましょう。 ⑥冬のスクーリング時の持参物 ・カイロ ・重ね履き用の靴下 寺院拝観時には足がかなり冷えるので、防寒はしっかりしましょう。
2：荷物	荷物はコンパクトにしてください。移動をともなうことや、研修先の障子や襖、建具などにつけて、モノを傷めてしまう可能性があるからです。とくに宿泊の荷物（スーツケース、キャリーバッグ）は、各自最寄り駅のコインロッカーなどに預けてから集合してください。
3：服装	①装飾が少なく身動きのしやすい服装を心がけましょう。障子や襖といった材質の弱いものは、私たちが身につけている衣類によって傷めてしまうことがありますので、建物に上がるスクーリングでは、ジーパンは避けましょう。また、神社仏閣では、ノースリーブ、ランニング、短パンなどは避けましょう。 ②運動靴やウォーキングシューズなど歩くのに適したものを選んでください。パンプスやヒールのある靴は不適です。

4：見学先での心得	①文化財に触れることが厳禁であることは言うまでもありませんが、狭い場所に露出展示されている場合、故意にでなくとも、着衣や持ち物で引っ掛けてしまう危険があります。そういう立ち居振る舞いも含めて、文化財には触れないよう注意してください。 ②美術館、博物館、宝物館など展示ケースのある施設では、ガラスケースに手などの汚れを付けないよう、触れないように心がけましょう。 ③堂内の仏像や照度を落としてある展示場などで、管理者のご配慮でライトをあてて見せてくださることもありますが、個人的にペンライトや懐中電灯で文化財を照らすことはやめましょう。 ④筆記用具は鉛筆（HB～2B）のみです。文化財を汚すのでインクの出るもの（ボールペン、マーカーなど）、シャープペンシルは使用しないでください。また、アクセサリ類、マニキュアなども、文化財の破損・汚染の原因になるので避けましょう。消しゴムのかすなどは、床や畳に落とさずに、紙に包んで持ち帰ってください。 ⑤建物に上って見学する際、素足は厳禁です（ストッキング・タイツも不可）。汗や足の汚れなどで床や畳を汚さないため、必ず靴下を履きましょう。非公開の文化財やお茶室に入る際は、履き替え用の白靴下を準備し、建物に上る前に履き替えましょう。 ⑥建物に上って見学する際、リュックサックなどの背負う荷物は、必ず下ろして前に持ちましょう。場合によっては、貴重品・ノート・鉛筆以外のものは教員・アシスタントの指示に従い、指定の場所に置くか、預けるようにしましょう。 ⑦雨天時や夏場、建物に入る前にタオルで雨や汗を拭くようにしましょう。湿気を嫌う建物や文化財を濡らさないためです。 ⑧建物の中で研修を受ける際、着衣が床をこする恐れのある場合は、裾を折り曲げるなどの配慮をしましょう。 ⑨柱や障子、襖などにもたれたり、触れたりしないように注意しましょう。荷物などを置く場合も、壁や柱に持たせかけてはいけません。 ⑩炉（ろ）の切られている部分に乗ってはいけません（茶室など）。 ⑪扉などにむやみに触れたり、閉じてある扉を開いたりしてはいけません。 ⑫神社仏閣での見学や建物に上っての見学の際は、脱帽しましょう。関係者の方々の出迎えのある場合は、必ず「おじゃまいたします。」「ありがとうございました。」などの挨拶をし、この場を提供していただいたことに対し、感謝の気持ちを表しましょう。 ・建物の中やその周辺（庭園も含む）での飲食は厳禁です。 ・写真撮影・スケッチについては研修先の指示に従ってください。 ・参詣者・見学者の妨げにならぬよう周りに気を配りましょう。私語も慎みましょう。 ・グループを離れるなど、勝手な行動は慎んでください。教員・アシスタントの指示に従い、なるべく集団でかたまって移動するよう心がけましょう。 ・携帯電話の電源は切り、研修時に使用しないでください。 ・学外研修では徒歩で移動を行うことが多くあります。重要文化財を見学する場合もあるため、杖を利用される等の相談があればスクーリング申し込み前に事務局にお問い合わせください。
5：その他	【神社仏閣や歴史的建造物で研修を受ける際の心得】 神社仏閣での研修の場合、宗教的に支障がなければ、見学の前もしくは後に合掌・黙礼をしましょう。 貴重な神社仏閣や歴史的建造物を今私たちが目にできるのは、いにしえより幾人もの人々の手によって大切に守り伝えられてきたからにほかなりません。現代に生きる私たちもまた、この人類の貴重な財産を後世の人が目にできるよう大切に守り伝えていかなければなりません。神社仏閣や歴史的建造物で研修を受ける際には、そのかけがえのなさを十分に認識し、興味（自分）本位にならぬよう自己を律しながら、文化財を汚さない、傷めない行動を心がけましょう。 神社仏閣や歴史的建造物は、私たちにとっては学習の場であっても、そこに従事する方や参詣・参拝に訪れている方にとっては生活の場であり、大切な宗教施設です。ていねいに掃除がなされ、清められた場であることを忘れず、真摯な気持ちで研修に臨みましょう。

14. 学習のしおり（学習をはじめるまえに）

芸術学は、芸術を制作する実技のコースではなく、芸術を広く知り、深く理解し、言葉でそれを人に伝えることをおもな作業とするコースです。

芸術学を学ぶとは

芸術は砂漠のなかの湖のようなものかもしれません。なにもないところにちょっとした機運によって、水がたまります。砂の無形の素地から水面という有形が浮かびあがります。それを奇蹟という人もいます。驚異の出来事はさらに目を見張る光景を繰りひろげていきます。水たまりが湖になり、その縁から堰を切って川が流れ出します。川筋が縦横無尽に砂漠を走るさまを想像することもできます。また、おなじように誕生したいくつもの湖がさらに大きな湖に変容していくさまを想像することもできます。しかし、どれほど豊かにイメージが展開しようとも、それらは、一瞬のうちに、消え去るものでもあります。目の前には、ただただ、よりどころのない無形の砂漠がひろがっているばかりです。

芸術学を学ぶとは、たとえていえば、だれの土地でもない無主の砂漠に、驚嘆すべきこととしてたまさか揺らめくであろう、水の変幻自在な陽炎の目撃者になることです。水の轍をたずね、繊細で鋭敏な感性の証人になることです。



芸術学を学ぶ人のプロフィール

芸術が好きな人はなにをやるか。ある人は自分も芸術を作ろうとする。日本画や洋画などの実技のコースで学んでください。

ある人はもっと芸術にふれたいと思う。図版でしか見ていなかったら、現物も見てみたいと思う。一日に何本かのバスしかない僻地の聖堂にそれが安置されていようとも、見に行こうとする。こうして旅をつづける。始めも終わりもない旅を……。

そう、美の追跡者、美の狩人、そうなれる人そうなりたい人こそが、芸術学を学ぶ人です。

歴史も理論も

いろいろな科目を用意しています。古今東西、いろいろな芸術にふれていただきたいと思います。知らなかった芸術を知ってしまった芸術にどんどん転換して行ってください。未知の芸術領域はいくらでもあるはず。新たな芸術との出会いによって刺激を受け、目を肥やし、感性を養い、芸術の新しい価値をご自身で見いだして行ってください。

科目としては、大きく、歴史の科目と理論の科目にわかれます。「芸術学Ⅱ」などは、歴史の科目です。地球上のそれぞれの場所や時代にどのような芸術が開花したのか、ざっと展望できる眼力を身につけてください。感性の引き出しが増えたご自身を実感なさるはず。 「芸術学Ⅰ」などは、理論の科目です。古今東西、美や芸術についてどのように語られてきたのか、あるいはいま芸術はどのように語られるべきか（語られうるか）を学びます。漠然とものごとを知っているのと、言語によって体系だって知っているのとは、質的な差異があります。言語化することによってはじめて気づかされることも多いです。美や芸術について語る語り口を学んでいただきます。

身近なところから芸術を

芸術の敷居が高くなってはいないでしょうか。天才ばかりが芸術を作るのでしょうか。芸術的な感性は特殊な人にしかもてないのでしょうか。芸術の敷居は教育（もちろん大学教育もふくめて）やメディアの力によって不必要に高くされてしまっているかもしれません。「芸術的素養はないので」という百千の真顔の言い訳を聞くのはとても辛いことです。

今日、芸術と通称されているものは、英語ではファイン・アート（fine art）と呼ばれるものです（ちなみに、美術館の絵画やコンサートホールの音楽はファイン・アートと呼ぶにふさわしいものです）。それはファインと限定的にアートを規定した言葉です。しかし、ファインという形容詞をとったアートという言葉はもともとより広い意味をもっていました。それは「技芸」と訳するのに適切な生活をするうえでさまざまな技（わざ）のことです。編み物をするのも、料理を作るのも、花を生けるのもアートということになります。アートは生活を快適にするためのさまざまな「技芸」のことです。

大量生産・大量消費ではなく、生活の質が求められる時代、「芸術」という呪縛を解き放って、身近なところから、アート（技芸）を再発見していくのも大切なことです。

学習の仕方（コツ）

学問は一日でなされるものではありません。一生かかってもなにかをなしたと言い切れるほどのものはなされないかもしれません。多くの人の学問的生活というのはそのようにすごされてしまうのかもしれませんが。

しかし重要なことは、かならずしも個人がエポック・メイキングな金字塔を打ち立てることではありません。学問的に生きるということでは重要なことは、成果よりも持続だと思います。日々の積み重ねです。どのような小さなことであれ、一日のうちにでも、いまの一時間のうちにでも、一瞬のうちにでも、学問的な（芸術的な）なにかをなそうとすることです。学ぼうとすることです。そうしたことの積み重ねがあってはじめて、先人たちの積み重ねにも積み重ねることができ、ときにふりかえって、なにかをなしたと言い切れるほどのことをなすことにもなりうるのです。たとえば挙げられるべきことはなにもなされなかったとしてもいいのです。先人たちの積み重ねに積み重なり後人たちの積み重なり積み重ねられるような積み重なりにはだけはいますぐにだれでもなることができます。

卒業成果物について

芸術学コースは「卒業研究」に力をいれています。他大学では卒業論文なしで卒業を可能にするところもあると聞きます。時代にあって逆行してまでも、当コースは「卒業研究」にこだわり、力をいれています。

具体的には、卒業年次に卒業論文（あるいは他の形態の卒業成果物）を書いてもらうのですが、それにいたるまでに、一年を通して、三度のレポートを提出してもらいます。それぞれ「草稿」「中間報告」「仮提出」の位置づけです。そして、各学生にはテーマに沿って、専門の教員二人（主担当と副担当）が、あたかも伴走をするかのようにして、レポートの添削や講評の指導にあたります。また、年に二回の個人面談の授業もあります。

それだけではなく。卒業年次の前年に、「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」を受講してもらいます。「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」は「卒業研究」の前段階の必修科目です。ここでは、論文（あるいは他の形態）の書き方やテーマの選び方や資料の集め方など、面接授業を中心に懇切丁寧な指導がなされます。ですから、つごう二年をかけて、卒業論文（あるいは他の形態の卒業成果物）を仕上げてもらうことになります。



版画：岩田英一（2009年度卒業生）

MEMO

[illegible]

[illegible]

